

## ○平成26年1月 鳥獣の保護及び狩猟の適正化につき講ずべき措置について（答申）（中央環境審議会）

### （9）自然共生社会の実現に向けた人と鳥獣の関係について

人は、暮らしの中で鳥獣を狩猟して利用したり、鑑賞したりしてきたが、都市化や過疎化の進行により、多くの人にとって、鳥獣は暮らしと遠い存在になっている。一方で、中山間地のみならず地方都市においても鳥獣による生活環境被害が深刻化している。

このような状況の中で、人は鳥獣とどのような関係を作っていくべきか、将来的な課題として検討を深めるべきである。鳥獣被害問題の背景には、産業構造の変化、都市部への人口集中等に伴う里地里山地域の無居住地化などがある。人が日本の国土の中で自然とどのような関係を築いていくべきか、自然環境はどのような状態が望ましいかなどについて広範な議論が必要であり、生物多様性国家戦略に掲げられている自然共生社会の実現のためにも重要である。